

平成27年千種区の人口動向の概況

新年度となり、身の回りで転入・転出があった方も多いと思います。そこで今回は千種区の人口動向を考える上で重要な人口増減の内訳を見ていきたいと思います。

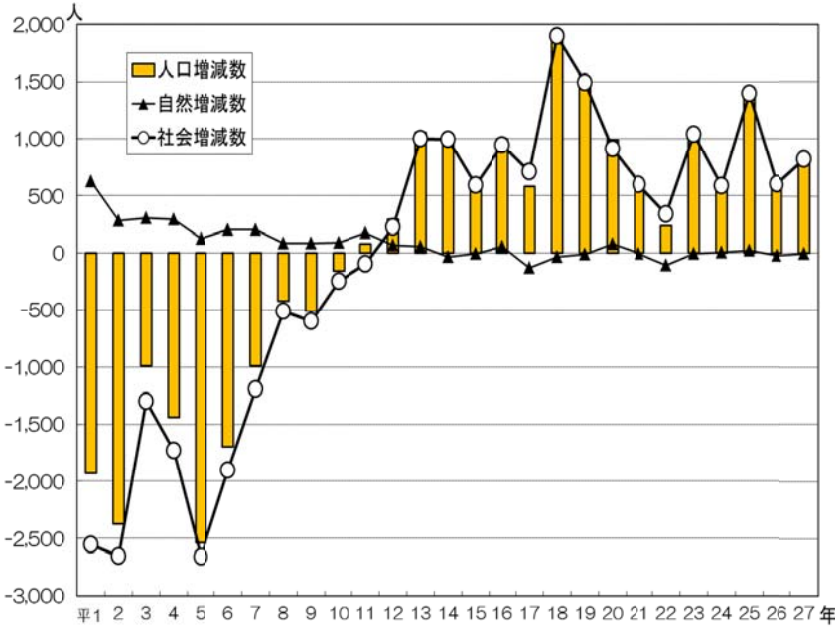


図1: 千種区の人口増減数、自然増減数および社会増減数の推移
(各年前年10月～当年9月)

平成27年10月現在の千種区の人口数は、前年同月比821人増の164,465人となっており、名古屋市16区のうち4番目の人口規模です。図1の人口増減数を見てみると、千種区の人口は平成11年以降増加し続けています。社会増減数（転入数－転出数）は、平成8年度以降、人口増減数の変化にほぼ対応して変化しています。一方、自然増減数（出生数－死亡数）は年々ゆるやかに減少し、近年はわずかな増減を繰り返しています。従って、千種区の人口増減数の変化は社会増減数の変化に大きく依存していると考えられます。そこで、次に、社会増減数およびこれを左右する転入数・転出数について見ていきます。

注)平成26年度10月現在の人口は平成22年度国勢調査結果を基礎とし、平成27年度10月現在の人口は平成27年国勢調査結果の本市独自集計速報値である。

平成26年10月から平成27年9月までの千種区の社会増減数は826人の増加となっており（図2）、名古屋市16区の中で4番目となっています。社会増減数は前年比で227人増加しています。また、社会増減数は平成12年以降転入超過を維持しています。

また、人口移動数（転入数＋転出数）は26,822人で、16区中最大となっています。

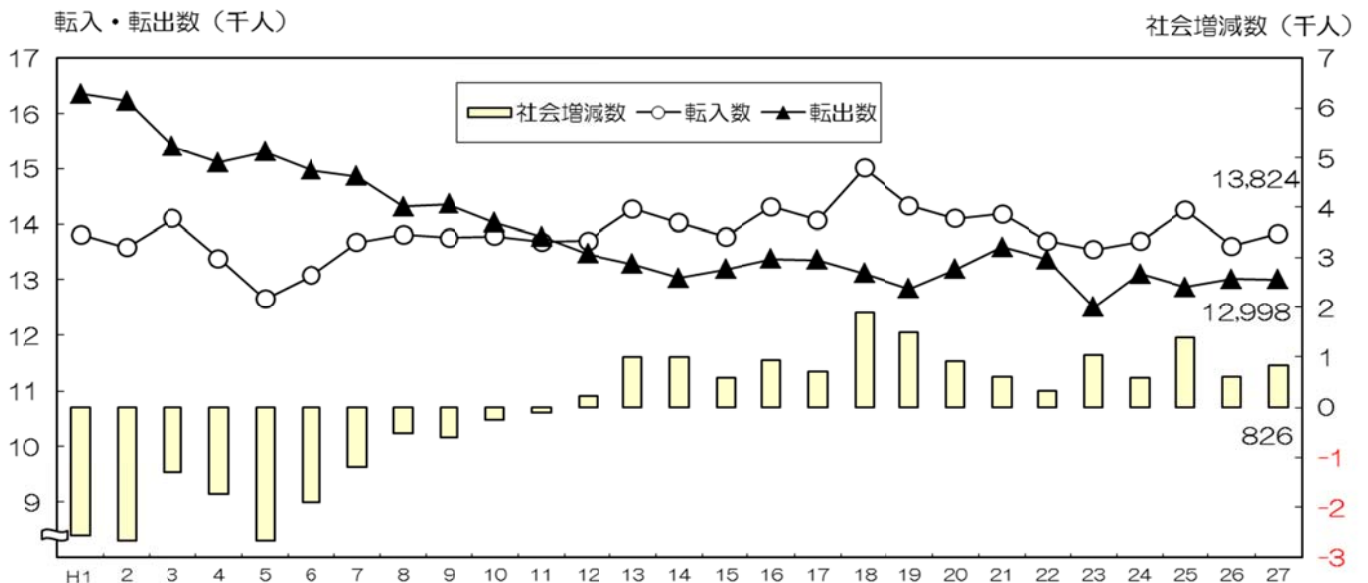


図2: 千種区の平成元年以降の社会増減数、転入数および転出数の推移（各年前年10月～当年9月）